

## 平成27年度香取市液状化対策検討委員会（第10回）議事要旨録

- ◆日 時 平成27年5月4日（月） 13:00～16:30
- ◆場 所 中央大学後楽園キャンパス 会議室
- ◆出席委員 (委 員) 石原 研而 (委員長) 古関 潤一 (副委員長)  
中井 正一 松下 克也 林 清一 石井 良典 (敬称略)  
中村 徹立 (欠席)  
(事務局) 香取市  
パシフィックコンサルタンツ株式会社

### ◆議 題

#### 議 事

(1) 府馬地区の液状化対策について

その他

(1) 今後の予定について

### ◆配付資料

- 資料-1 委員名簿
- 資料-2 第9回委員会の議事要旨録（案）
- 資料-3 府馬地区の液状化対策検討結果
- 別冊資料-1 府馬地区の調査・検討データ

#### (1) 府馬地区の液状化対策について

事務局より、資料-3、別冊資料-1を用いて府馬地区の液状化対策について報告した。

##### 【主な報告】

- ・ 液状化解析および圧密沈下解析結果に基づき、地下水位低下工法の適用が困難と考えられることを報告した。

##### 【主な意見・ご質問】

- ・ 地下水位低下によって沈下が予測されるエリアに、湧水などを導水して注入してはどうか。また、矢板長を長くしてはどうか。（石原委員長）

【回答】水を注入することは可能であるが、その効果を定量的に評価することは困難であり、実績から地下水位低下とそれに伴う沈下を完全には防止できない可能性が高いと考えられる。また、当該地区には深部にも難透水層が存在しないため、矢板長を長くしても、地下水位低下の抑制効果は小さいと考えられる。（事務局）

- ・ 地下水位低下によって沈下が予測されるエリアを、予め対策しておくことはできないか。方法としては、液注入工法で地盤を固化する方法、アンダーピニング工法で家屋を杭支持とする方法などが考えられる。（古関副委員長、松下委員）

【回答】技術的には可能であるが、その費用は住民負担となるため、実現困難と考えられる。（事務局）

- ・ 集水井戸の数や配置を工夫し、沈下を抑制することはできないか。（古関副委員長、石原委員長）

【回答】集水井戸の数や配置を変化させて複数案検討したが、いずれの案においても液状化防止と沈下防止を両立できなかった。（事務局）

- ・地盤の不均質性などから、予測以上の不同沈下や傾斜が発生する可能性もあるため、当該地区では、地下水位の低下は行わないほうがよい。（中井委員）

【回答】了解した。（事務局）

- ・地下水位低下によって液状化対策を行った場合、閾値を超える沈下と傾斜の発生が予測され、家屋などに有害な被害が生じることが想定されるため、当該地区において地下水位低下工法を適用することはできないものと判断される。（石原委員長）

【回答】了解した。（事務局）

## その他

### （１）今後の予定について

府馬地区については、5月前半に住民説明会を開催し、地下水位低下工法を適用できないことをご理解いただく。今後ともご指導をいただきたい。（事務局）